自助のすすめ
【ハザードマップの見方編】

市政出前講座オンデマンド
令和８年５月　駿河区役所地域総務課作成
令和８年５月29日　更新
令和８年10月22日　更新



はじめに

この資料は、駿河区地域総務課が行う市政出前講座
「わが家と地域の防災対策」の内容を

〇地震編

〇津波編

〇風水害編

〇ハザードマップの見方編

の４つに分け公表するものです。

市民一人ひとりの災害に関する備えや
地域の自主防災会等が行う普及啓発の
一助となれば幸いです。

目次

○ハザードマップの見方編

１　ハザードマップを見る際の注意点

２　ハザードマップ（しずマップ）の見方

（防災マップ、津波、洪水・内水・高潮、Ｒ４年台風15号浸水実績）

３　まとめ

＜留意事項＞

本資料の「しずマップ画面」をスクリーンショットで引用する部分について、通常ベースとなる地図はGoogle地図がデフォルトになっていますが、本スライド上では、著作権保護のためオープンストリートマップをベース（マップの切り替えができない場合は生成AIによるイラストに差替え）としています。このため、地図の見え方が若干違うことを予めご了承ください。



１ハザードマップを見る際の注意点

静岡市　津波避難タワー

ハザードマップを見る目的

ハザードマップを見る主な目的は、

『自宅等の災害リスクを把握し、適切な防災対策や避難行動をとること』にあります。

『防災に正解はない』

という言葉がありますが、同じ災害（自然現象）でも、住んでいる場所や自宅の構造等によって生じる被害は異なり、また、家族構成や避難先までの距離等によって、避難のタイミングや移動手段も異なります。

⇒**適切な防災対策・避難行動は一人ひとり異なり、「誰にでも当てはまる正解はない」**のです。

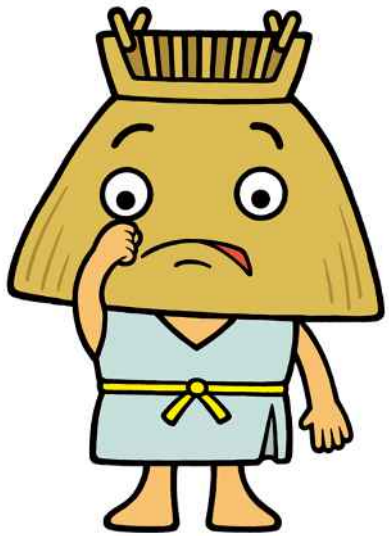
やってしまいがちな見方

ハザードマップを見る際に、やってしまいがちな誤った見方は次の3点です。

× 自宅等をピンポイントで見る

× ハザードマップ以上のことは
起こらないと思い込む

× 避難指示が出たら
とりあえず避難所を目指す



なにがいけないの…

正しい見方

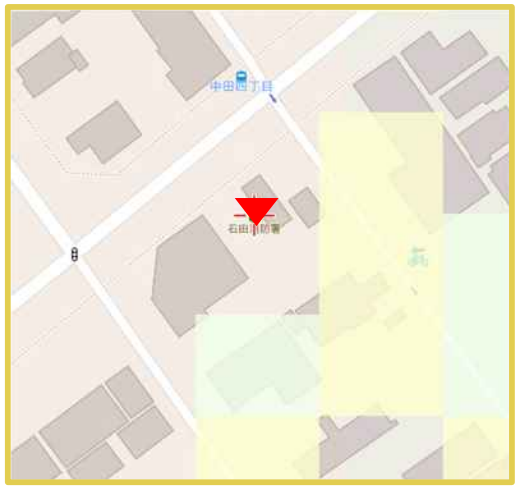
正しい見方は次のようになります。次のスライドから少し補足します。

- ○ 自宅の周囲を含め幅をもって見る
- ○ ハザードマップ以上のことが起こるかもしれないと考えておく
- ○ どういう災害のときに、どのタイミングで、どういう対策・避難行動をとるか考える

☑ 自宅の周囲を含め幅をもって見る

ハザードマップは、非常に細かく見ることができますが、あくまで一定の条件から導かれるシミュレーションの結果であり、必ずそのとおりになるとは限りません。

自宅をピンポイントで見るのではなく、少なくとも周囲数十メートルくらいは幅をもって見るようにしましょう。



×浸水想定なし！



○0.5m未満
浸水するかも

出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.Shizuoka.geocloud.jp）「洪水・内水・高潮ハザードマップ」を加工して作成
© OpenStreetMap contributors

☑ ハザードマップ以上のことが起こるかもしれないと考えておく

ハザードマップは、作成に当たって前提となる想定というのが存在します。基本的には、考え得る最大限を見込んでいるため、過度に心配する必要はありませんが、想定以上のことが絶対に起こらないとは言い切れません。「幅をもって見る」と近いですが、もしかしたら想定以上のことが起こるかも…という考えも残しておきましょう。

前提となる想定

地震　　：千年～数千年に１度の地震（M9.1）
津波　　：千年～数千年に１度の津波（津波の高さ12m）
洪水（河川氾濫）：1/1000年の確率雨量（河川毎異なる）
浸水（内水氾濫）：1/1000年の確率雨量（１時間に147mm）

☑ どういう災害のときに、どのタイミングで、どういう対策・避難行動をとるか考える

ハザードマップでとりあえず避難所だけ確認し、「何かあったらここに行けばいい」というのではなく、自宅の災害リスクに合わせて、いつ・何をするかを考えることが重要です。



例：台風や大雨の接近
リスクに応じて判断



側溝等の清掃



土のうを積む



止水板を設置



早めに自宅を離れる

ここまでのまとめ

- ☑ 適切な防災対策・避難行動は人によって違う
- ☑ まずは自宅の危険をハザードマップで確認することが大事
- ☑ ハザードマップはピンポイントで見てはいけない
- ☑ ハザードマップ以上のことが起こらないとは限らない
- ☑ 自宅の危険に応じた対策・避難行動を考える
- ☑ 避難場所に行くことだけが避難ではない





ハザードマップの見方

静岡市　津波避難タワー

しずまっぷ

静岡市のハザードマップは、紙のものもありますが、「しずマップ」というサイトで最新のものが見られるようになっています。

しずマップは、静岡市が公開する地図の位置情報を活用したシステムをひとまとめにしたものです。

https://city.shizuoka.geocloud.jp



出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
※著作権保護のためトップ画面の一部をイラストに差替えています

ハザードマップの種類

次の4つのマップについて次のスライドから順番に解説します。

※火山もありますが説明を省きます。

防災マップ



津波ハザードマップ



洪水・内水・高潮ハザードマップ



令和４年台風１５号浸水実績図【参考】



※著作権保護のためイラストに差替えています



防災マップ

静岡市　津波避難タワー

防災マップ

まずは、「防災マップ」から見ていきますので、オレンジ色の「防災マップ」をタップしてください。



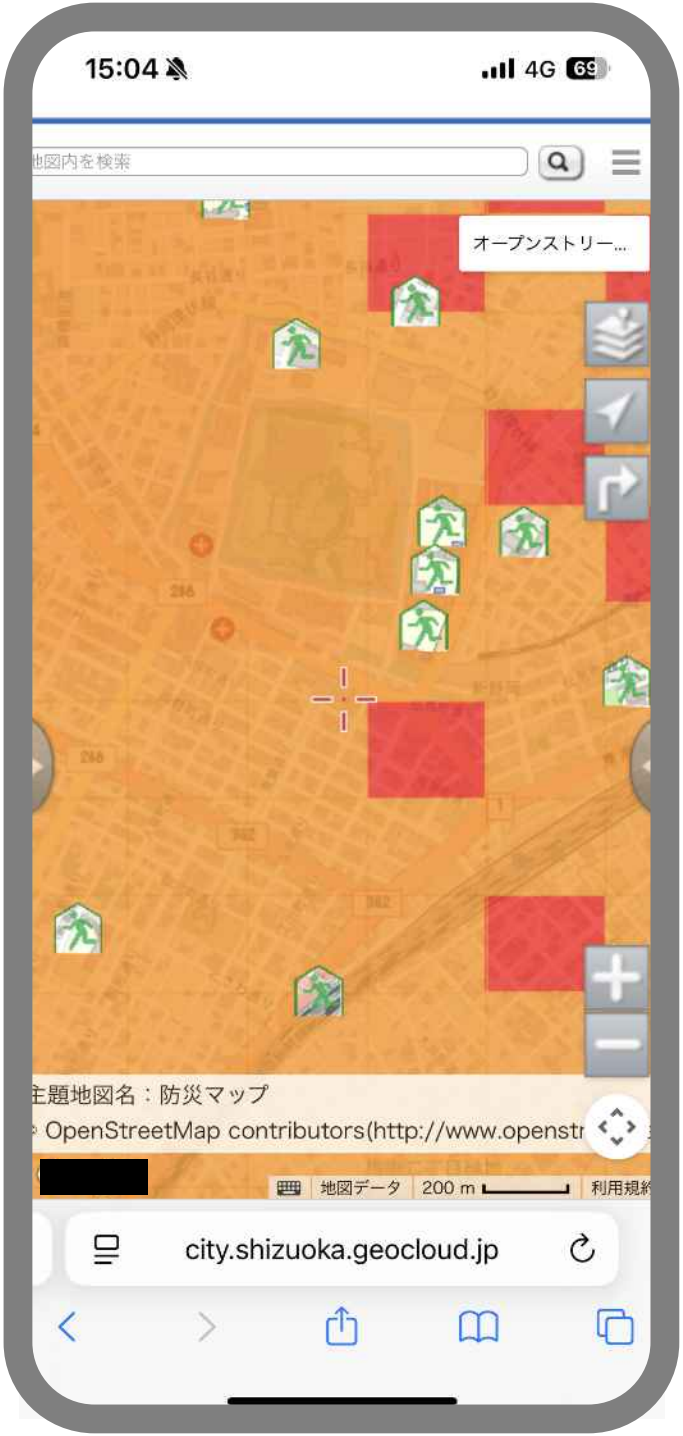
出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
※著作権保護のためトップ画面の一部をイラストに差替えています

防災マップ

「防災マップ」は、静岡県第4次地震被害想定（レベル2）の『震度』と『液状化の可能性』の分布等を地図に落としたものです。

静岡県第4次地震被害想定（レベル2）とは

東日本大震災を踏まえて静岡県が発表した『発生頻度は極めて低い（千年～数千年に1度）が、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波の想定』



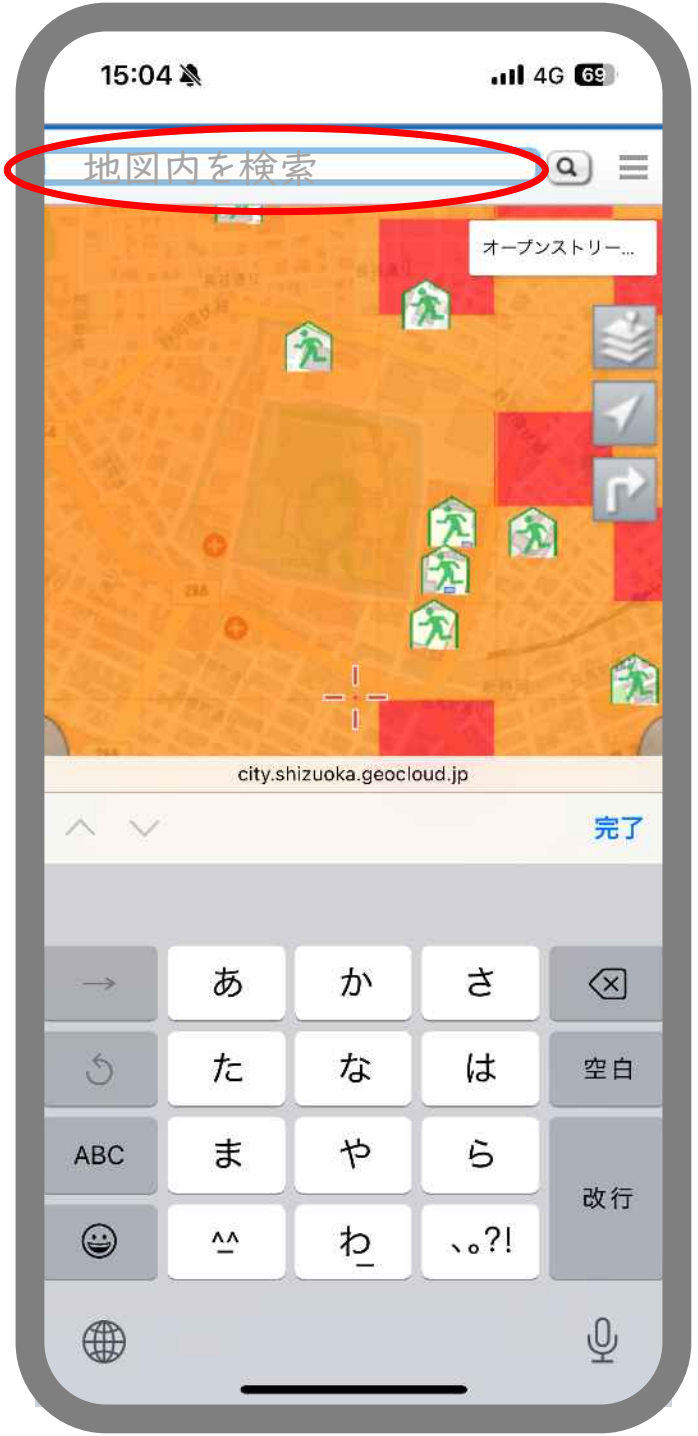
出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

防災マップ

上段の枠に「地図内を検索」と薄く書かれたところをタップして、調べたい場所の住所を入力します。

『〇〇区』からで検索できると思いますが、うまくいかない場合は、『静岡市』から入力してみてください。

このスライドでは「大浜公園」を例に表示します。



出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

防災マップ

検索すると、検索結果に住所が再度表示されるため、これをタップします。



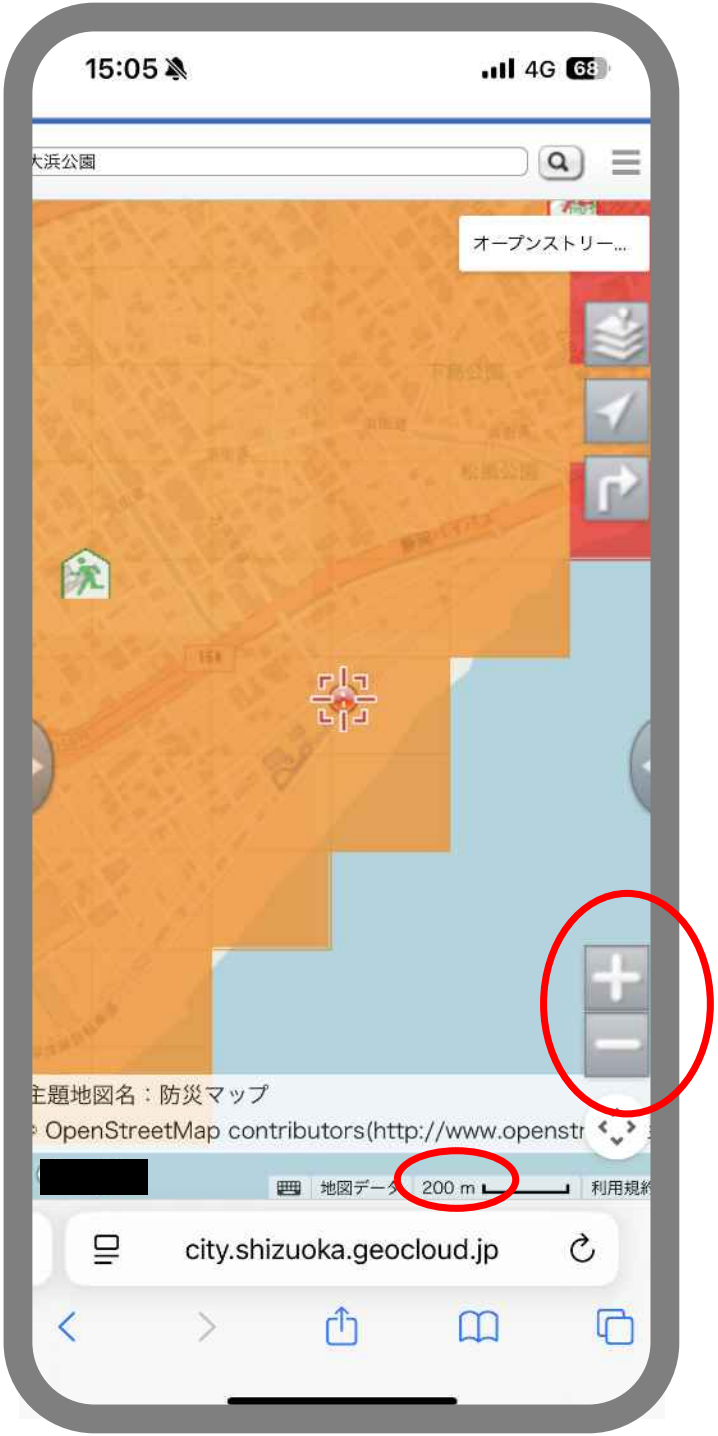
出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

防災マップ

表示された場所が、調べたい場所（自宅）と合っているか確認してください。

右下の「＋」「－」で地図の縮尺を変更できます。

位置が確認できましたら、縮尺を「50m」か「100m」になるようにしてください。
※細かく見過ぎないため



出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

防災マップ

多くの場合、オレンジ色か赤色が塗られていると思います。

色の見方は、真ん中右の◁をタップすると、『**凡例**』が開きます。
■赤が震度7、■オレンジが震度6強となり、これが南海トラフ巨大地震の想定震度です。

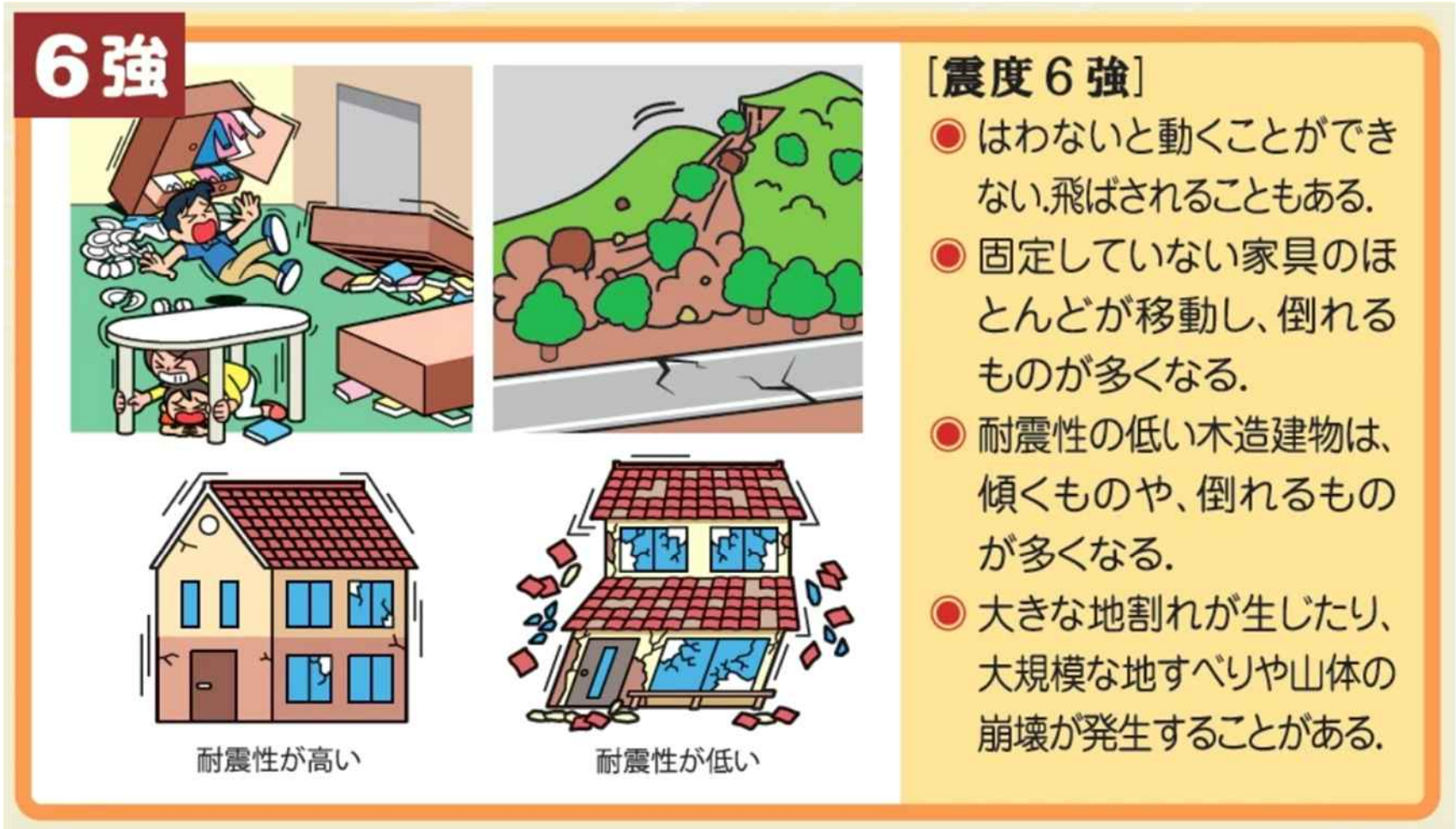
はじめに申し上げたとおり、ハザードマップはピンポイントで見てはいけませんので、自宅を含む周囲の色から「震度6強～震度7」といった感じで捉えてください。



出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

震度６強の揺れ

震度6強の揺れにより想定される状況は次のとおりです。



出典：気象庁発行リーフレット「その震度　どんなゆれ?」から抜粋

震度７の揺れ

震度7はさらに強い揺れで、想定される状況は次のとおりです。
ちなみに、地震の震度は7までしかありません。



出典：気象庁発行リーフレット「その震度　どんなゆれ?」から抜粋

能登半島地震の参考資料



写真：職員撮影

能登半島地震で現地に行った職員が撮ってきた写真です。

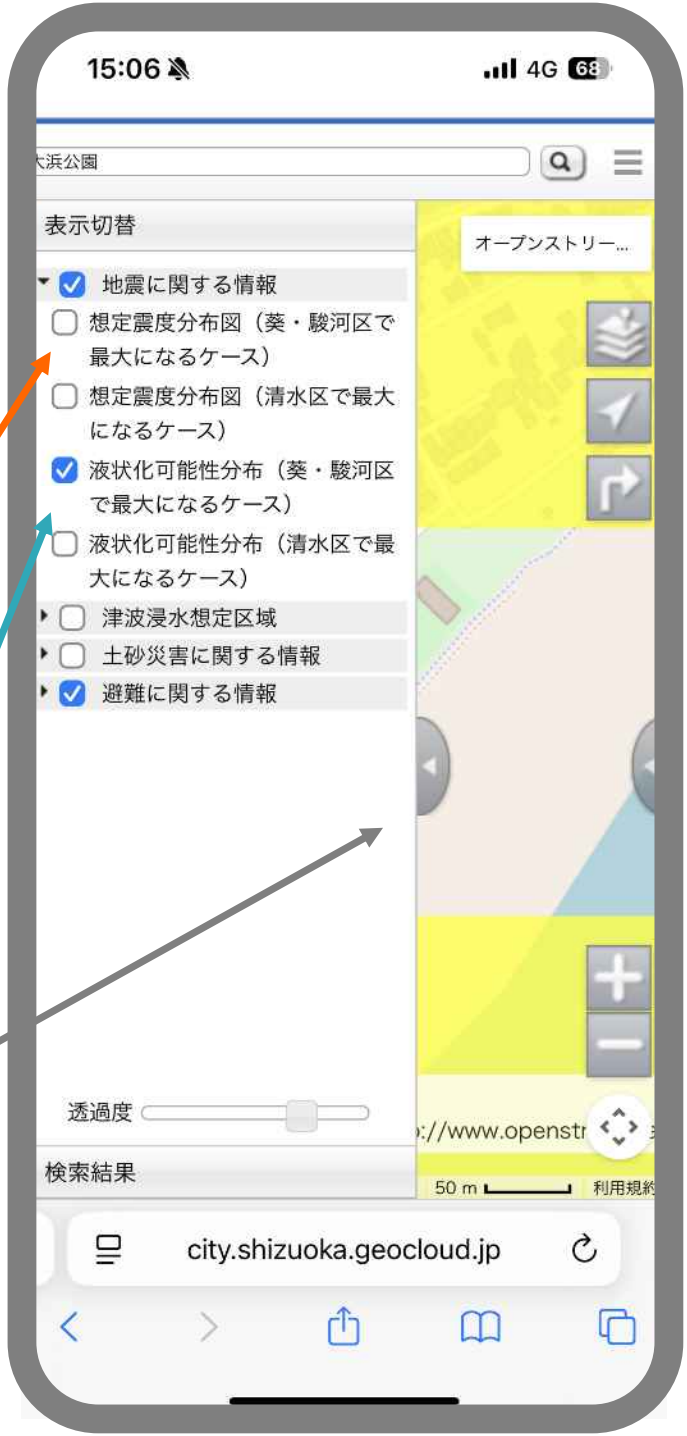
昔ながらの木造住宅が地震の揺れによって倒壊してしまっています。

防災マップ

続いて、液状化についてです。
画面左真ん中の▷ボタンをタップし、『表示切替』から

「地震に関する情報」左にある小さい▶をタップして、「想定震度分布図（葵・駿河区で最大になるケース）」の☐チェックを外して、「液状化可能性分布（葵区・駿河区で最大になるケース）」に☑チェックしてください。

真ん中の◁をもう一度タップすると地図に戻れます。



出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

防災マップ

すると、液状化の可能性分布が表示されます。

色は凡例からも見られますが、
■大（可能性が高い）
■中（可能性がある）
■低（可能性が低い）
□可能性がないorない可能性が高いため調査対象外

となっています。
こちらもピンポイントではなく、周囲を含め幅をもって見てください。

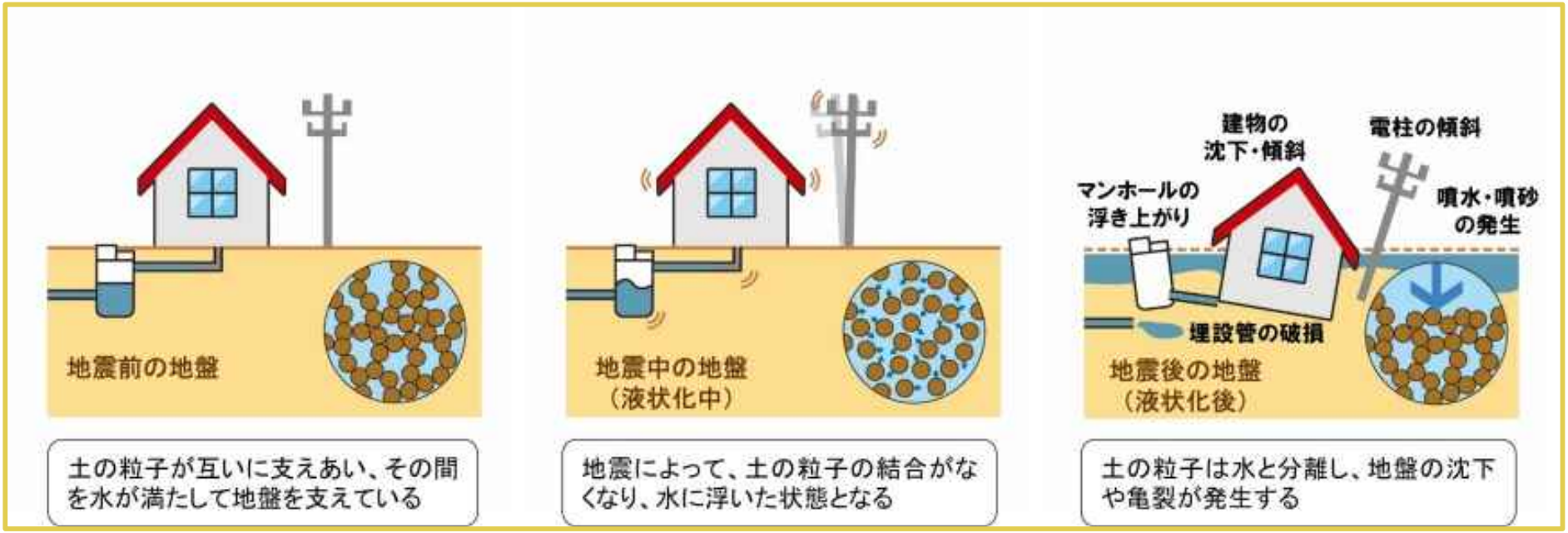


出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

液状化とは

液状化とは、地震が発生して地震が強い衝撃を受けると、今まで互いに接して支え合っていた土の粒子がバラバラになり、地盤全体がドロドロの液状になることをいいます。

液状化が発生すると、地盤から水が噴き出したり、建物が傾いたり、マンホールが浮き上がるといった現象が発生します。



出典：液状化現象について／提供者：国土交通省】
（https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_fr1_000010.html#:~:text=%E6%B6%B2%E7%8A%B6%E5%8C%96%E3%81%A8%E3%81%AF%E3%80%81%E5%9C%B0%E9%9C%87,%E3%81%AE%E3%81%93%E3%81%A8%E3%82%92%E3%81%84%E3%81%84%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82）（令和８年１月14日に利用）

液状化の参考資料



出典：（一財）消防防災科学センター「災害写真データベース」

東日本大震災の際の液状化の参考写真です。

地面が液状化し、水が表面に浮き出ています。

液状化の参考資料



出典：（一財）消防防災科学センター「災害写真データベース」

こちらも東日本大震災の参考写真です。

液状化によってマンホールが浮き上がっています。

地下を通る下水管などが破損していると思われます。

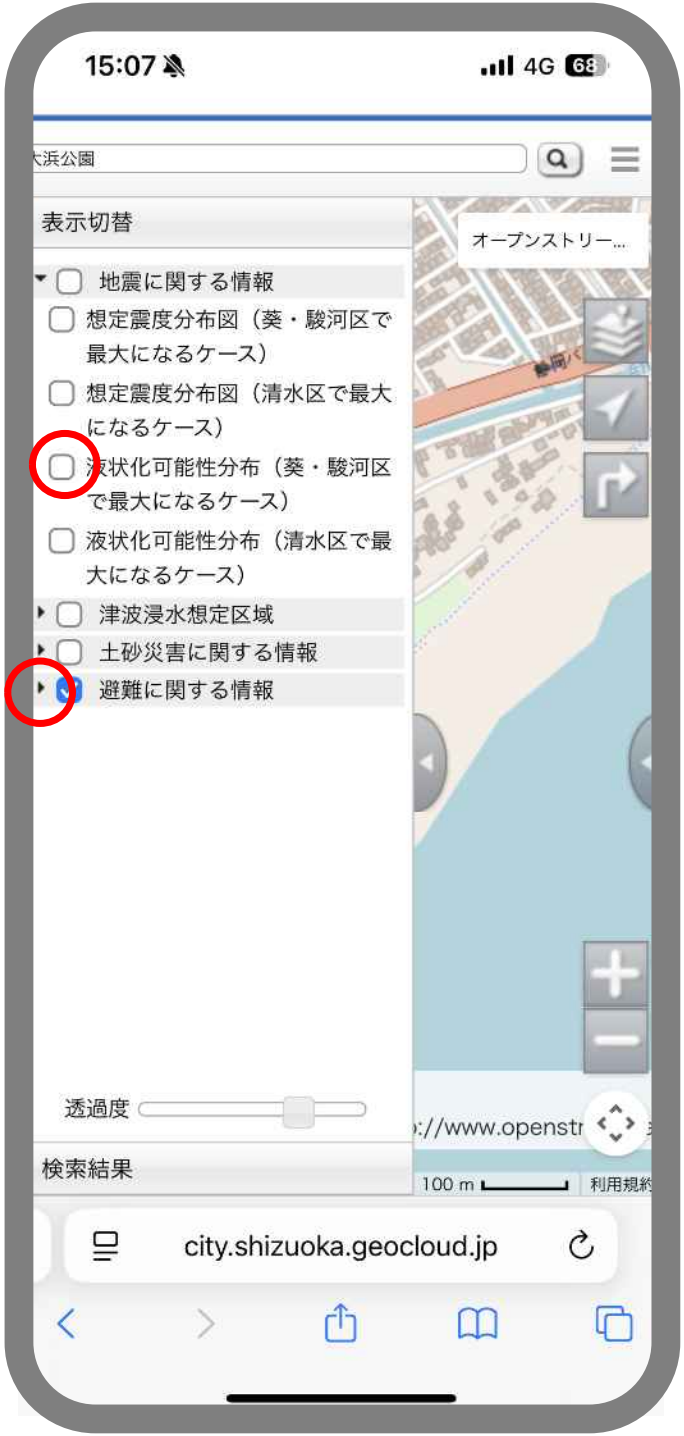
防災マップ

次に、防災マップから地域の防災資源を確認します。

画面左真ん中の▷から、表示切替を表示し、「液状化可能性分布」の☐チェックを外します。

一番下の「避難に関する情報」の左の小さい▶をタップして、内容を表示します。

※検索結果のバー 検索結果 の部分をタップすると、見やすくなります。



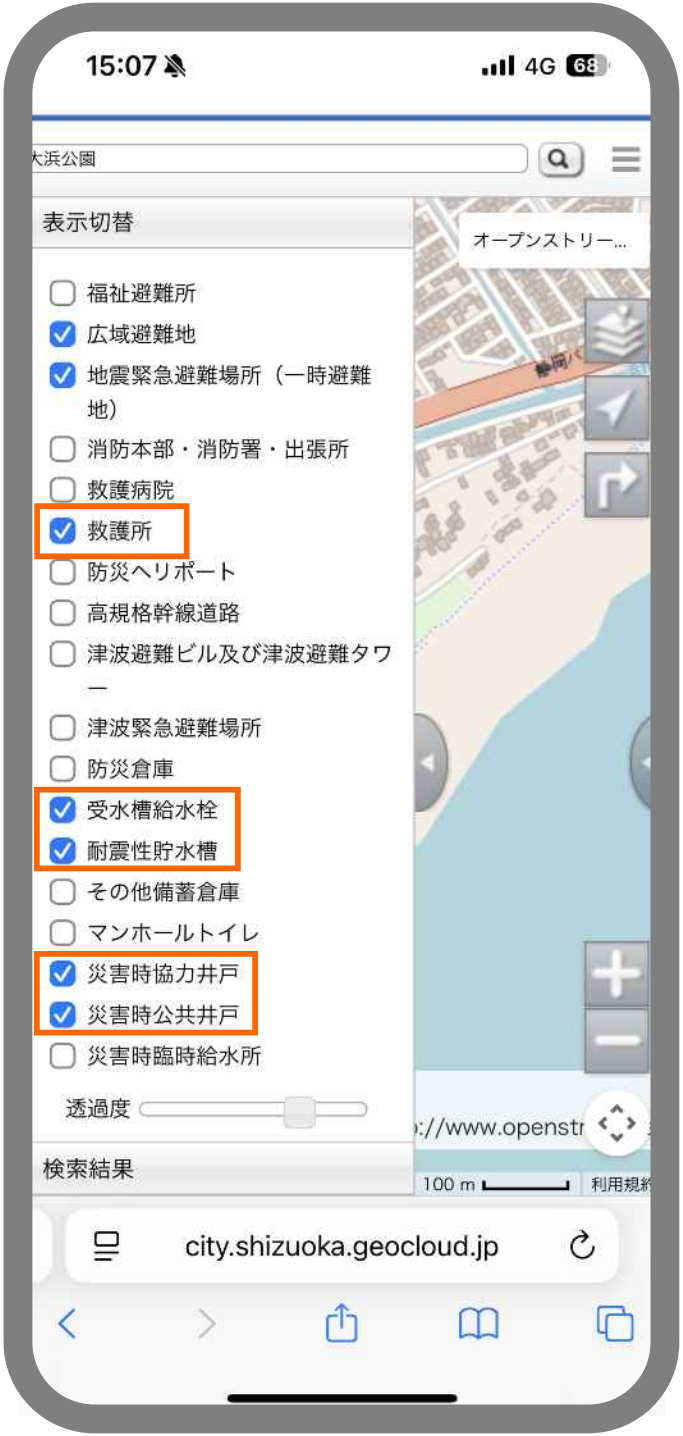
出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

防災マップ

スライドして全体を表示し、
- ☑ 救護所
- ☑ 受水槽給水栓
- ☑ 耐震性貯水槽
- ☑ 災害時協力井戸
- ☑ 災害時公共井戸

にチェックを入れてください。

真ん中の◁をもう一度タップすると地図に戻れます。



出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

防災マップ

必要に応じて「＋」「－」で縮尺を変えて、周囲のマークが見えるようにしてください。

それぞれのマークの意味は、真ん中右の◁から『凡例』で確認することができますが、主なものについて次のスライドで説明します。

ちなみにマークをタップすると、詳細が確認できます。



出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

地震緊急避難場所（一次避難地）

地図上のアイコン

※形は土地による

実際のイメージ



令和７年度　静岡市地域防災訓練の様子

地震緊急避難場所（一次避難地）

地震の揺れから命を守るために
一時的に避難する場所
⇒学校の校庭や公園等を指定

避難所

地図上のアイコン



避難所

自宅の倒壊等により、生活できない場合の避難生活先
⇒主に小・中学校の体育館等
（物資の配給も予定）

実際のイメージ



【出典：熊本災害デジタルアーカイブ／提供者：西原村】
（https://www.kumamoto-archive.jp/post/58-99991jl0001ivp）
（令和８年１月13日に利用）

救護所

地図上のアイコン

救護所

医者に診てもらう必要がある
怪我をした場合に行く場所
※ライフラインの途絶によって地域の
医療機関が診療できない場合に開設

実際のイメージ



※令和7年度の訓練の様子

耐震性貯水槽

地図上のアイコン



耐震性貯水槽

災害時の飲み水として市が備えているもの①
⇒イメージとしては、巨大な水道管。

実際のイメージ





1か所あたり約100tの飲用水を貯水

受水槽給水栓

地図上のアイコン



受水槽給水栓

災害時の飲み水として市が備えているもの②
⇒学校等にある貯水タンク

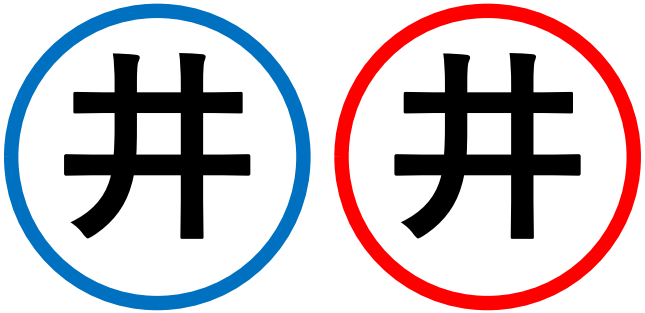
実際のイメージ



1か所あたり平均26tの飲用水を貯水

災害時協力井戸（公共井戸）

地図上のアイコン



災害時協力井戸
災害時公共井戸

災害時の生活用水として、
登録しているもの
※令和4年台風15号の反省から

実際のイメージ



防災資源のまとめ

まずは、自ら備蓄して災害に備える！
⇒最低限必要な備蓄（食料、水、非常用トイレ等を7日分）

その上で・・・

✕物資・食料が足りない場合⇒ 避難所へ

✕飲み水が足りない場合 ⇒ 耐震性貯水槽
or
受水槽給水栓

✕生活用水が足りない場合 ⇒ 災害時協力井戸へ

✕ケガをした場合 ⇒ 救護所へ

※軽いケガは自分や地域で対処



津波ハザードマップ

静岡市　津波避難タワー

津波ハザードマップ

次に津波ハザードマップです。

画面右上の  マークをタップして、『津波ハザードマップ』を開いてください。

津波ハザードマップも、南海トラフ巨大地震（L2津波：津波の高さ12m）が起きた場合の津波の高さ（基準水位）と到達時間を地図に落としたものです。



出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）

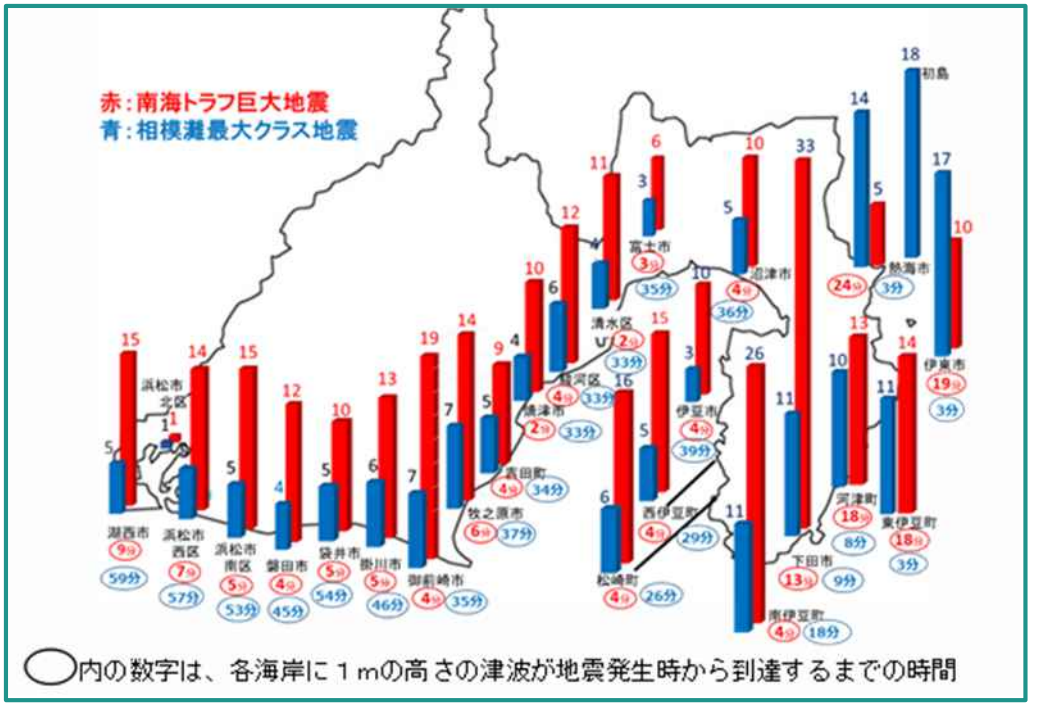
ちなみに

静岡県内の津波の高さの想定

少し見えにくいですが、赤が南海トラフ巨大地震（レベル2津波）の静岡県内の津波の高さの想定図です。
駿河区では12mの津波が想定されています。

津波は、岬の先端などで高くなる傾向があり、県内では、下田市の想定が最も高く33mの津波が想定されています。

※青は相模灘（神奈川方面）で想定される最大クラスの津波の高さを示しています。



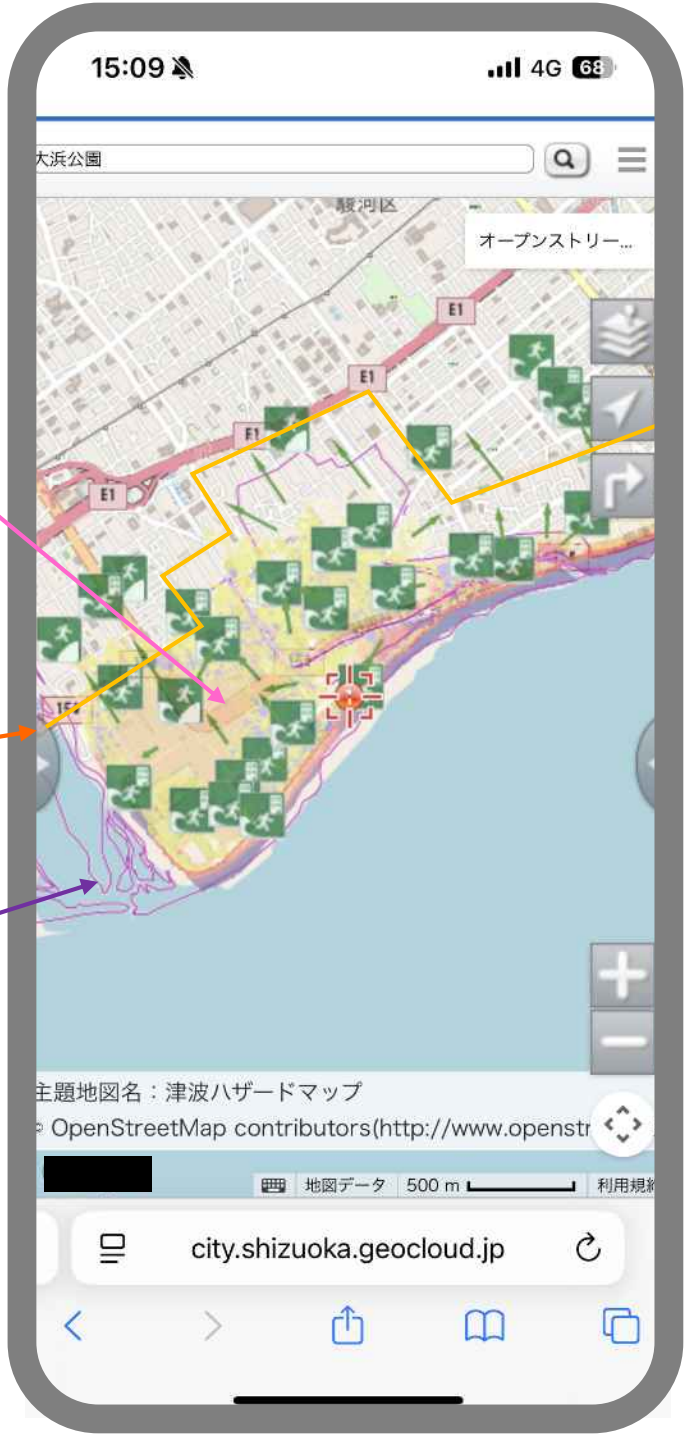
出典：「最大クラスの地震に伴う津波の高さと到達時間」（静岡県）
（https://www.pref.shizuoka.jp/bosaikinkyu/sonae/earthquake/bosaicenter/1003638/1043919/1003654/1003657/1030141.html）（令和8年1月19日に利用）

津波ハザードマップ

色の塗られているところが「浸水想定区域」で、色によって浸水の深さが異なります。※後程説明します。

その少し北側にオレンジで引かれたラインが「津波避難対象区域」です。浸水想定がない場合でも、このエリア内の方は避難行動をとる必要があります。

ちなみに、紫のラインは約170年前の安政東海地震で津波が到達したとされるラインです。



出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

津波ハザードマップ

右下の「＋」をタップし、自宅の周辺が確認できるまで地図を大きくしてください。

自宅周辺の色の部分（何色かある場合は、濃い部分）をタップします。

すると『詳細情報』が表示され、「基準水位（m） ○.○」と表示されます。

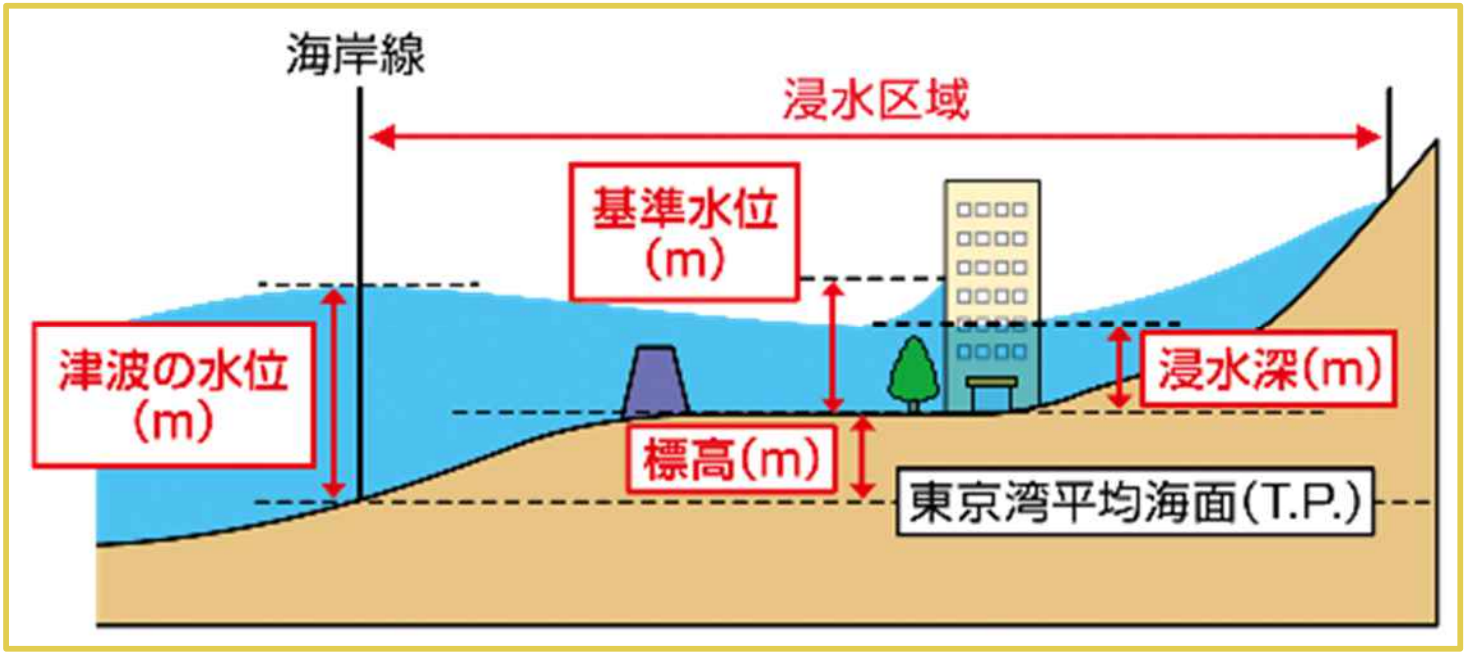
細かく表示されますが、周囲を含め「○m～○m」と幅をもって見るようにしてください。



出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

基準水位とは

基準水位とは、津波が防波堤を乗り越え、陸を遡上し、建物に当たった際のせり上がりを考慮した水位（高さ）のことです。想定上、その場所においては、最も高い水位になります。



出典：「津波ハザードマップ」（八戸市（https://www.city.hachinohe.aomori.jp/soshikikarasagasu/saigaitaisakuka/bosai/1/2159.html）（令和８年１月13日に利用）

ちなみに、気象庁が発表する津波警報や津波の高さは、海岸線に到達した際の高さ（図で言うところの「津波の水位」）で発表されます。

津波ハザードマップ

次に、津波の到達時間です。

真ん中左の▷をタップし、表示切替から津波浸水想定区域の☐チェックを外し、津波到達時間を☑チェックしてください。



出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

津波ハザードマップ

マップが右のように変わります。

自宅のある場所に色が塗られている場合は、色をタップすると、到達予想時間が表示されます。

真ん中右の◁から『凡例』が見られますが、

- 10分未満
- 10分以上～15分未満
- 15分以上～20分未満
- 20分以上～30分未満
- 30分以上

となっています。



出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

津波ハザードマップ

津波の到達時間は、複数ある津波の想定の中で、最も到達時間が早い値を表示しています。

南海トラフ巨大地震発生時は、地震の揺れが3～4分（あるいはもっと）続くと言われています、また、発生時刻にもよりますが、避難行動を開始するまでの時間も必要です。

避難行動に正味何分使用できるかを検討しましょう。
※目安は到達予想時間-10分程度



出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

津波ハザードマップ

津波の避難行動としては、

① 津波避難対象区域（オレンジのライン）の外へ避難
② 津波避難ビル・タワーへ避難 
③ 近くの3階建て以上の頑丈そうな建物や高台へ避難

の順で、避難方法を検討します。

地図には、緑の矢印➡で避難方向が示されていますので、参考にしていただければと思います。



出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

津波ハザードマップ

津波の避難行動としては、

① 津波避難対象区域（オレンジのライン）の外へ避難
② 津波避難ビル・タワーへ避難 
③ 近くの3階建て以上の頑丈そうな建物や高台へ避難

の順で、避難方法を検討します。

地図には、緑の矢印 ➡ で避難方向が示されていますので、参考にしていただければと思います。



出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors



洪水・内水・高潮
ハザードマップ

静岡市　津波避難タワー

洪水・内水・高潮ハザードマップ

次に、洪水・内水・高潮ハザードマップです。
画面右上の  マークをタップして、『洪水ハザードマップ』を開いてください。

洪水ハザードでは、千年に1度の確率雨量を基にした**洪水、内水氾濫**と**土砂災害、高潮**のリスクを見ることができます。

※外水氾濫の想定雨量は河川毎異なる
※内水氾濫は1時間147㎜を想定
※土砂災害は雨量に関係なく地形から想定
※高潮は中心気圧910hPaの台風を想定



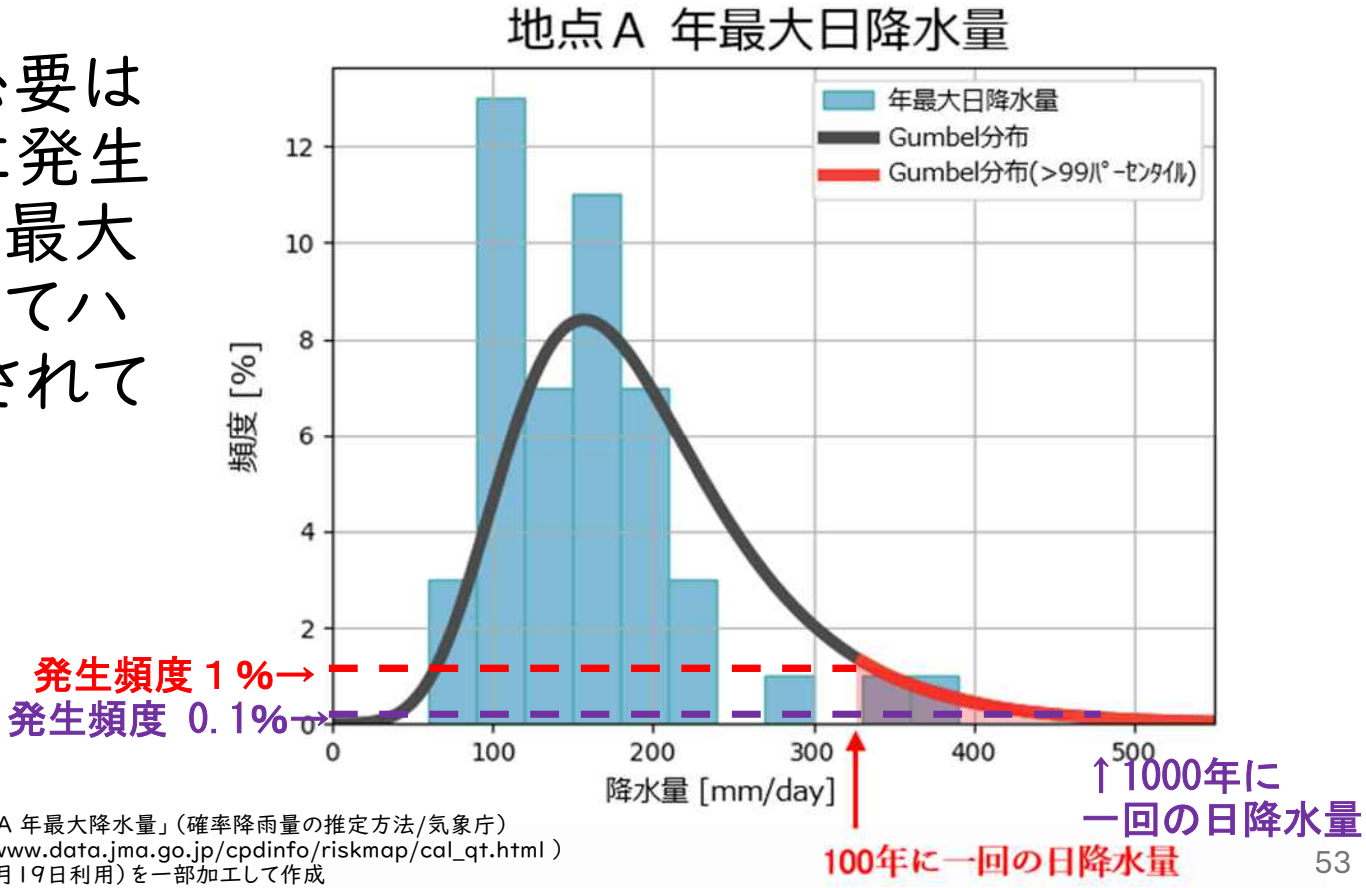
出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）

ちなみに

千年に１度の確率雨量とは

過去の統計から降雨量ごとの発生確率をグンベル分布という手法を用いて算出し、その分布の中で0.1%の頻度（1/1000）で発生し得る降雨量が千年に1度の確率雨量です。

これを特に覚える必要はありませんが、過去に発生したことがないような最大規模の大雨を想定してハザードマップは作成されています。



出典：「地点A 年最大降水量」（確率降雨量の推定方法/気象庁）
（ https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/riskmap/cal_qt.html ）
（令和8年1月19日利用）を一部加工して作成

風水害の概要

風水害の概要については、【風水害編】をご覧いただければと思いますが、ハザードマップで確認できるのは内水氾濫・洪水・土砂災害・高潮の4点です。

内水氾濫



洪水



土砂災害



高潮



竜巻



突風



※竜巻・突風はハザードマップがないため説明を省きます。

洪水・内水・高潮ハザードマップ

まずは、内水氾濫からです。

真ん中左の▷をタップし、表示切替を開きます。
あらかじめすべての項目に☑が入っていますので、「安倍川・藁科川の浸水に関する情報」～「高潮浸水」までのチェックを外します。

画面真ん中の◁をタップすると、地図に戻ります。



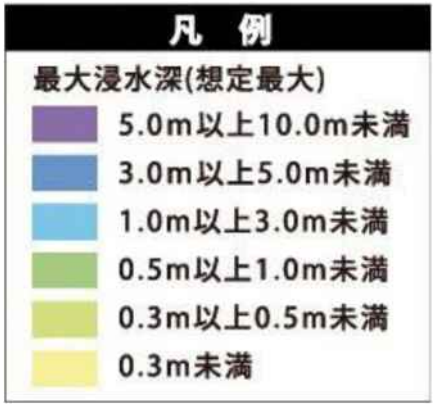
出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

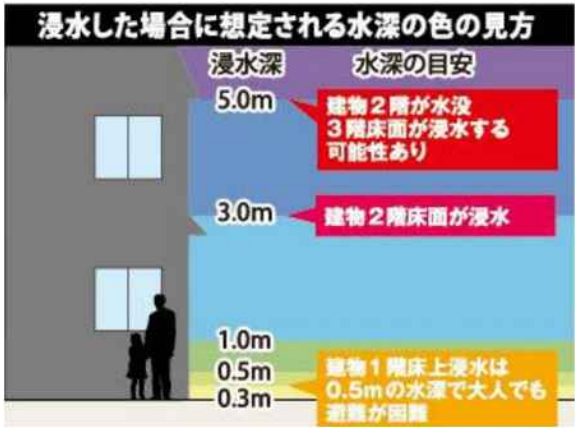
洪水・内水・高潮ハザードマップ

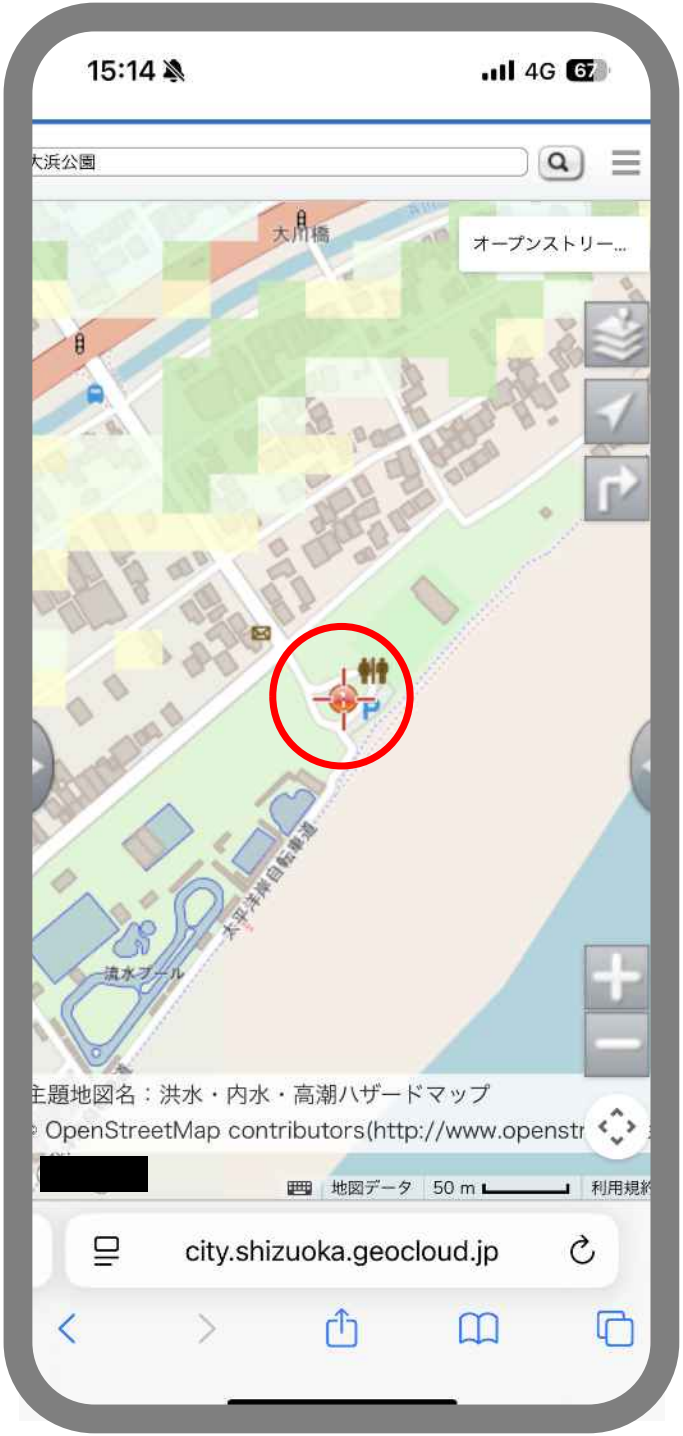
色の見方は真ん中右の◁から凡例で確認できますが、下図のとおりです。

■ 黄色・■ 黄緑色までは床下浸水の想定となりますが、■ 緑色以上の場合は床上浸水のリスクがあります。

※地盤や基礎の高さにもよります。







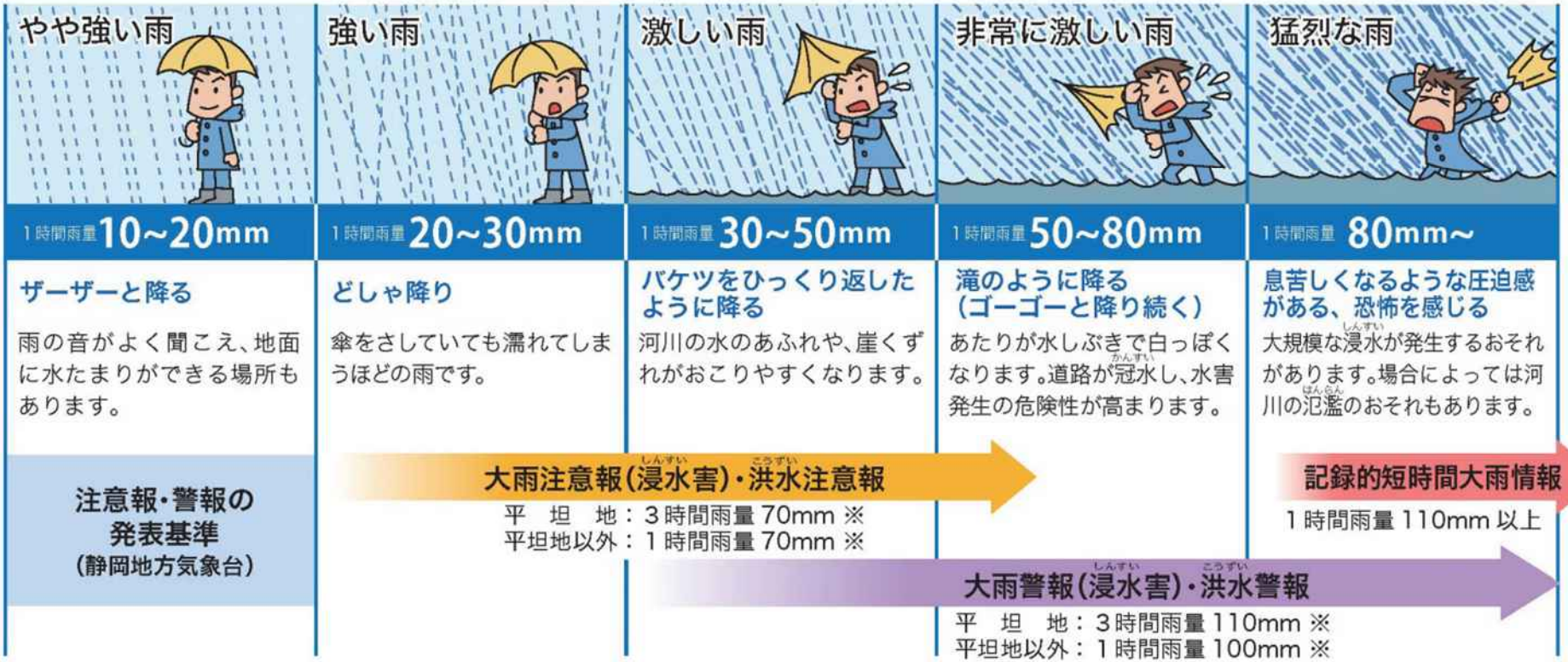
出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

ちなみに

雨の強さ

1時間雨量の雨の強さの表現とイメージです。
ちなみに、内水氾濫は、1時間雨量147mmの想定で作成されています。

雨の強さと警戒レベル



※現在、注意報・警報の発表は雨量指数等を基準にしています。 詳細は気象庁ホームページをご確認ください。 記載の雨量は過去の資料から参考として載せています。

出典：静岡市浸水ひなん地図（内水ハザードマップ）

洪水・内水・高潮ハザードマップ

大雨の際、車両の緊急避難場所として、市内一部パチンコ店や商業施設と協定を結んでいます。


水害時緊急避難協力駐車場


水害時緊急避難公共駐車場

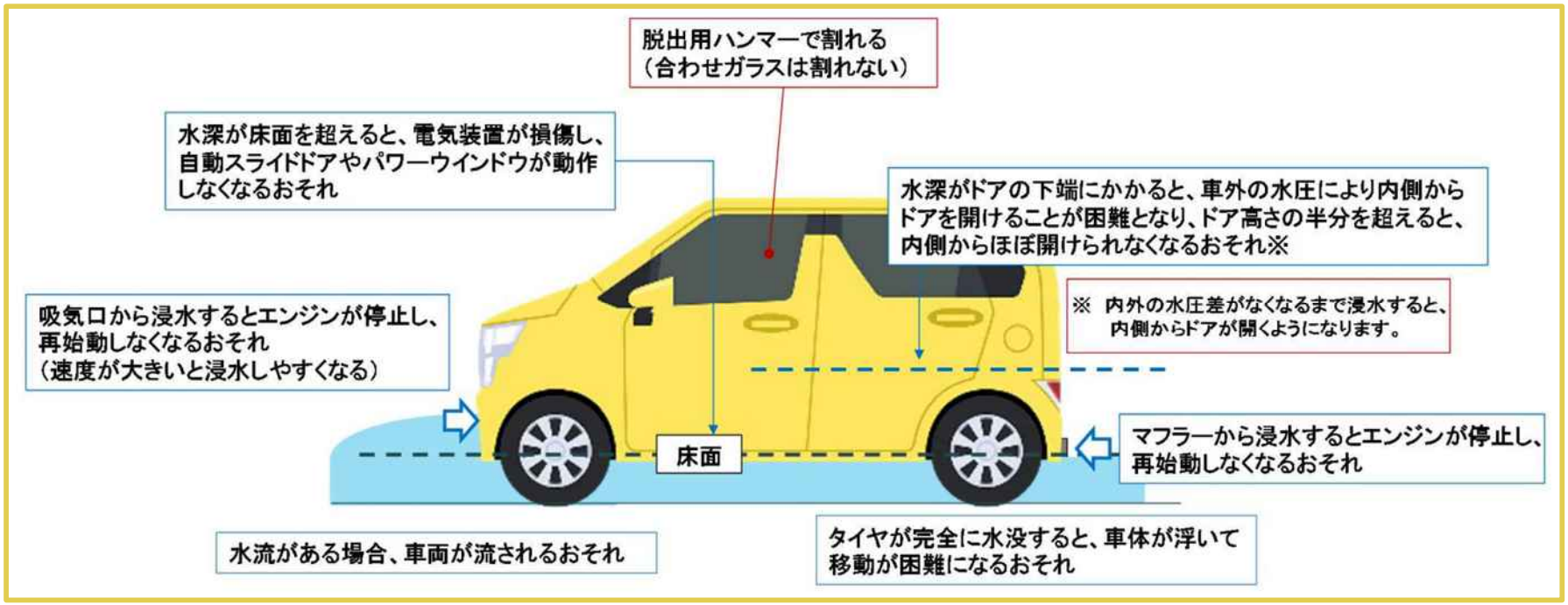
常時開放されているわけではないため、利用にあたっては事前に「静岡市防災ナビ」等をご確認ください。



出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

冠水時の自動車走行

アンダーパスや冠水した道路に進入したことにより、車両が水没する被害が多発しています。水位が車体の床面（約30cm）を超えると不具合が発生すると言われていますので、無理な進入は絶対にやめましょう。ハザードマップを活用し、安全な場所で待機したり、冠水しづらい道を通るなどしてください。



出典： 水深が床面を超えたら、もう危険！－自動車が冠水した道路を走行する場合に発生する不具合について－／提供者：国土交通省（https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha08_hh_003565.html）（令和８年１月14日に利用）

洪水・内水・高潮 ハザードマップ

続いて、洪水です。

真ん中左の▷をタップし、表示切替を開きます。

□内水のチェックを外し、該当する河川を選択します。

※駿河区の場合は、
☑ 安倍川・藁科川の浸水に関する情報
☑ 丸子川の浸水に関する情報
☑ 中小規模河川に関する情報
の3つが該当します。

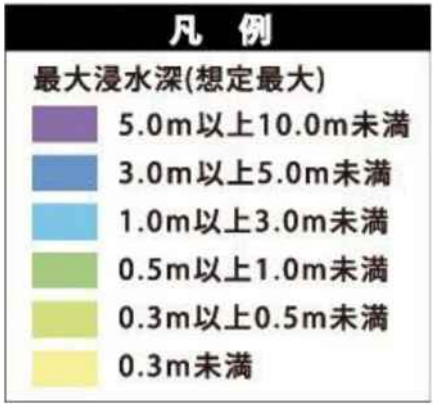


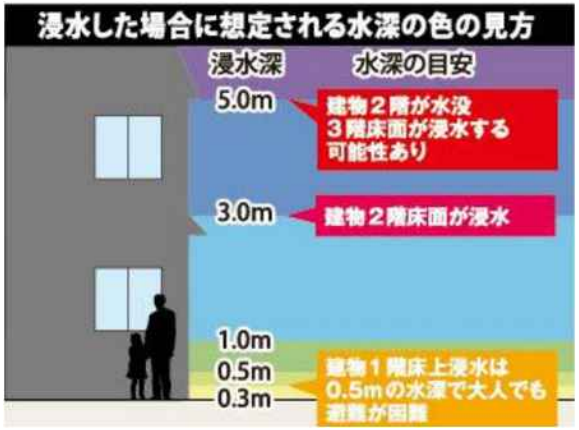
出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

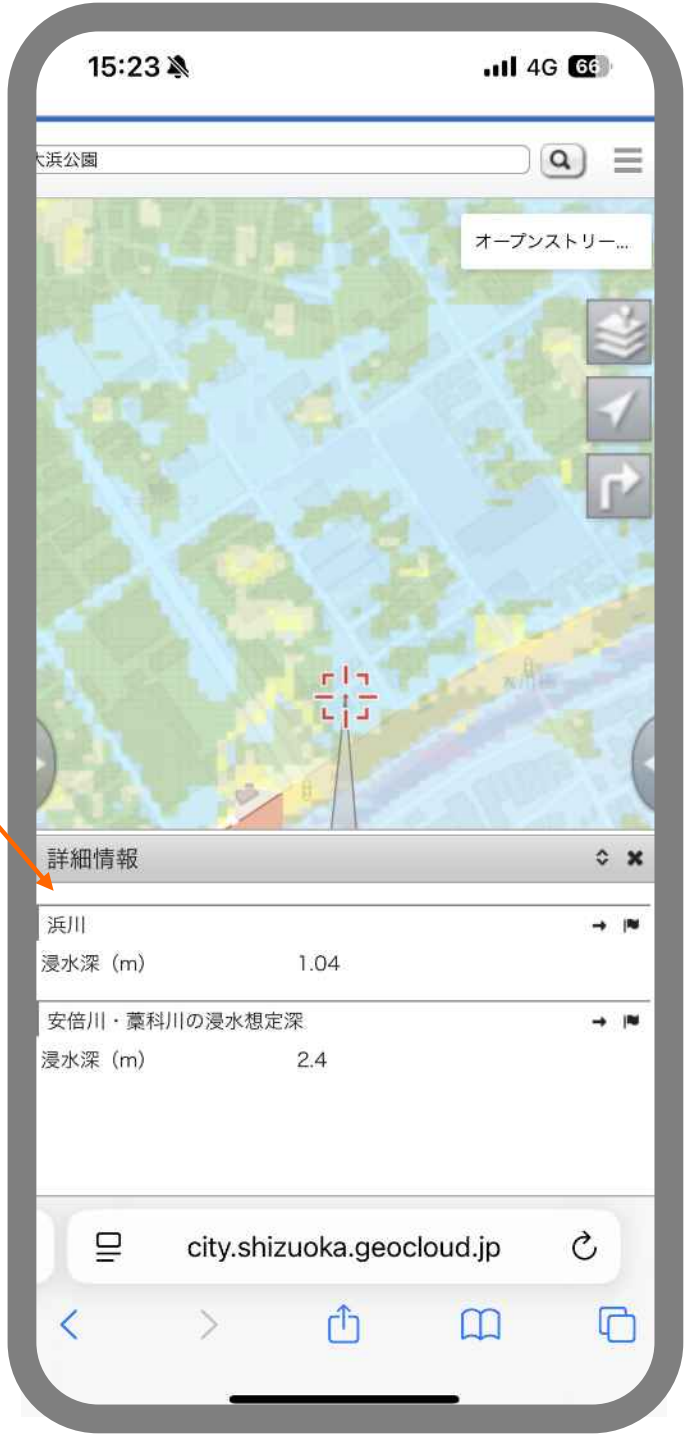
洪水・内水・高潮 ハザードマップ

色のついた箇所をタップすると『詳細情報』が開き、「〇〇川の浸水想定深　〇m」と表示されます。

複数の河川で該当する場合は、複数表示されます。
色の見方は内水氾濫と同じです。







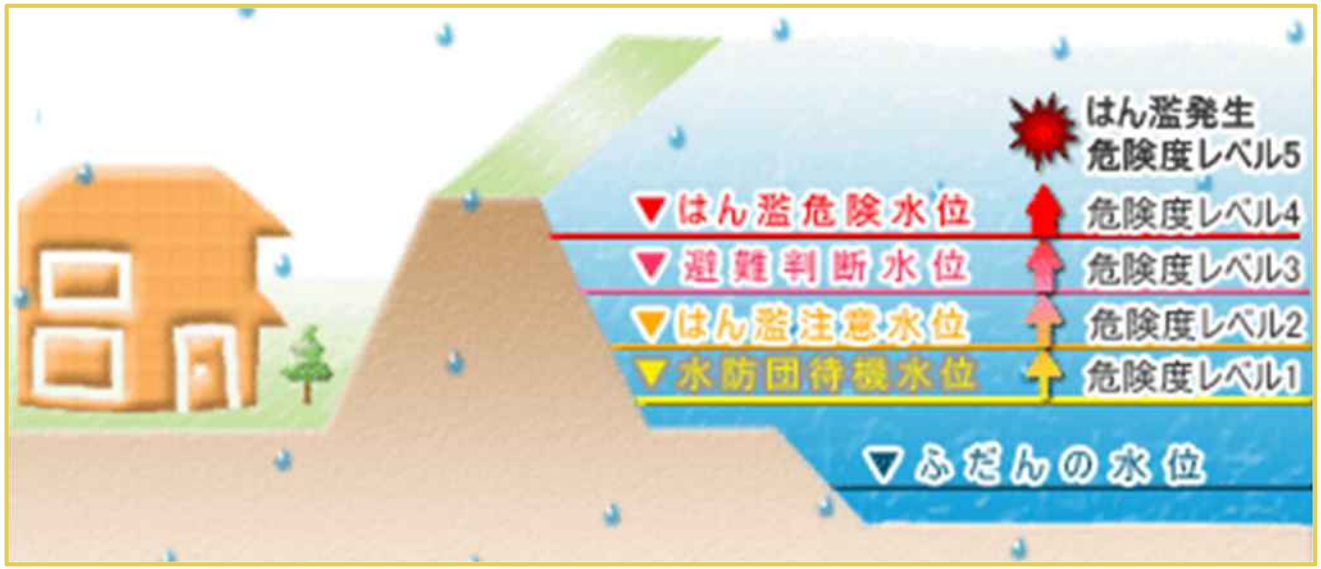
出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

ちなみに

川の氾濫リスク

洪水の危険度は、氾濫注意水位（警戒レベル2相当）、避難判断水位（警戒レベル3相当）、氾濫危険水位（警戒レベル4相当）、氾濫の発生（警戒レベル5相当）の4段階で示されます。

立ち退き避難（自宅を離れる避難）をする場合、避難判断水位（警戒レベル3相当）～氾濫危険水位（警戒レベル4相当）までには避難を完了しましょう。



出典：洪水時の河川水位名称について（京浜河川事務所）（https://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/keihin00263.html）（令和８年５月８日に利用）

ちなみに

安倍川・丸子川の洪水危険度

河川の水位情報は、身近なところではテレビのdボタンから確認することができます。（インターネットでも調べることができます）

dボタン⇒「防災・生活情報」⇒「河川水位情報」を開くと、氾濫注意水位以上の河川と水位の増減等が確認できます。

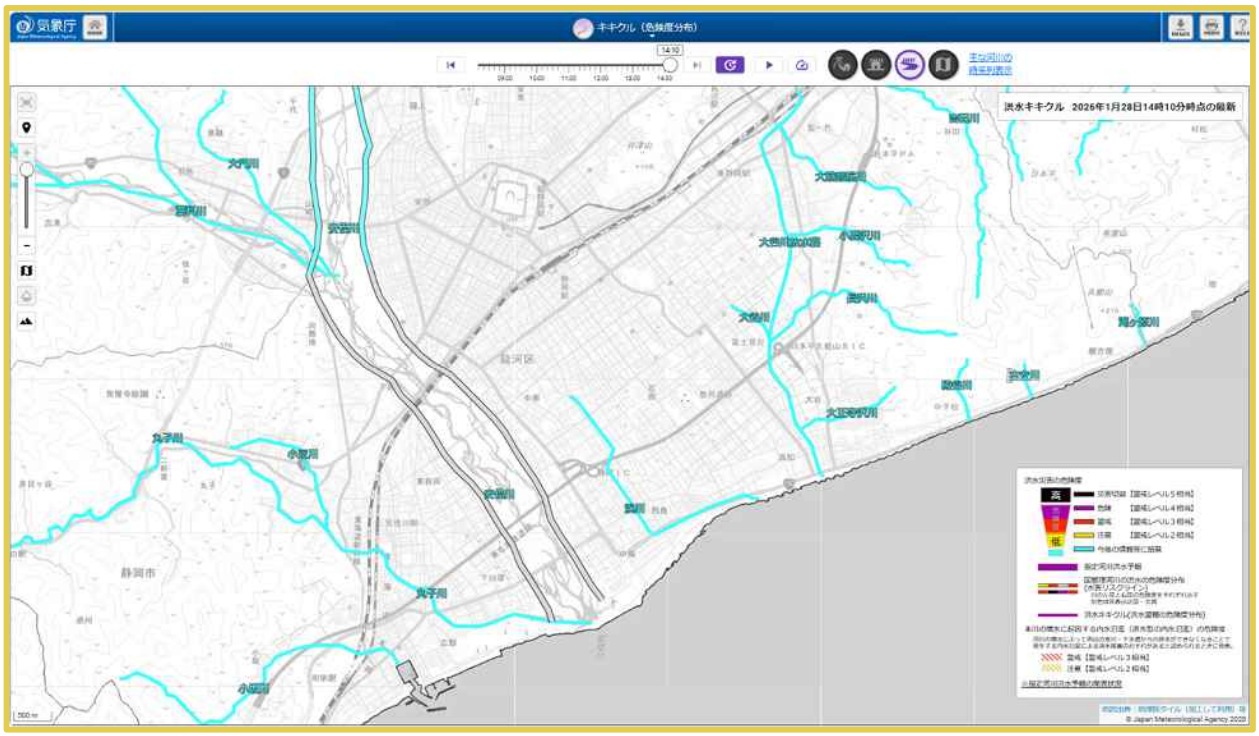


対象河川一覧
・安倍川
・丸子川
※順不同、駿河区内のみ
※放送局によって異なる場合があります。

ちなみに

その他中小河川の洪水危険度

安倍川・丸子川以外の中小河川は、テレビのdボタンからは水位情報が見られませんので、洪水キキクル（気象庁）の色分け（洪水危険度）を参考にしましょう。川の線が赤色になったら警戒レベル3相当、紫色になったら警戒レベル4相当です。



出典：洪水キキクル／提供者：気象庁
（https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#lat:34.955041/lon:138.400354/zoom:14/colordepth:normal/elements:flood）（令和８年１月28日に利用）

対象河川一覧
・小豆川
・小坂川
・浜川
・大正寺沢川
・大谷川
・大谷川放水路
・殿谷川
・古安川
・滝ケ原川
・長沢川
・小鹿沢川
・大慈悲院川
・吉田川
・安倍川
・丸子川
※順不同、駿河区内のみ

ちなみに

河川氾濫に関する気象警報

令和8年5月29日（金）から「河川氾濫に関する気象警報」が発表されるようになりますが、この警報の対象は、静岡市では安倍川と富士川に限られます。

安倍川の氾濫の危険性が高まった際には、レベル3氾濫警報、レベル4氾濫危険警報が発表されますので、避難の判断にご活用ください。



出典：新たな防災気象情報について（令和８年～）（気象庁）から抜粋
（ https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/bosai/keiho-update2026/index.html）（令和８年3月13日に利用）

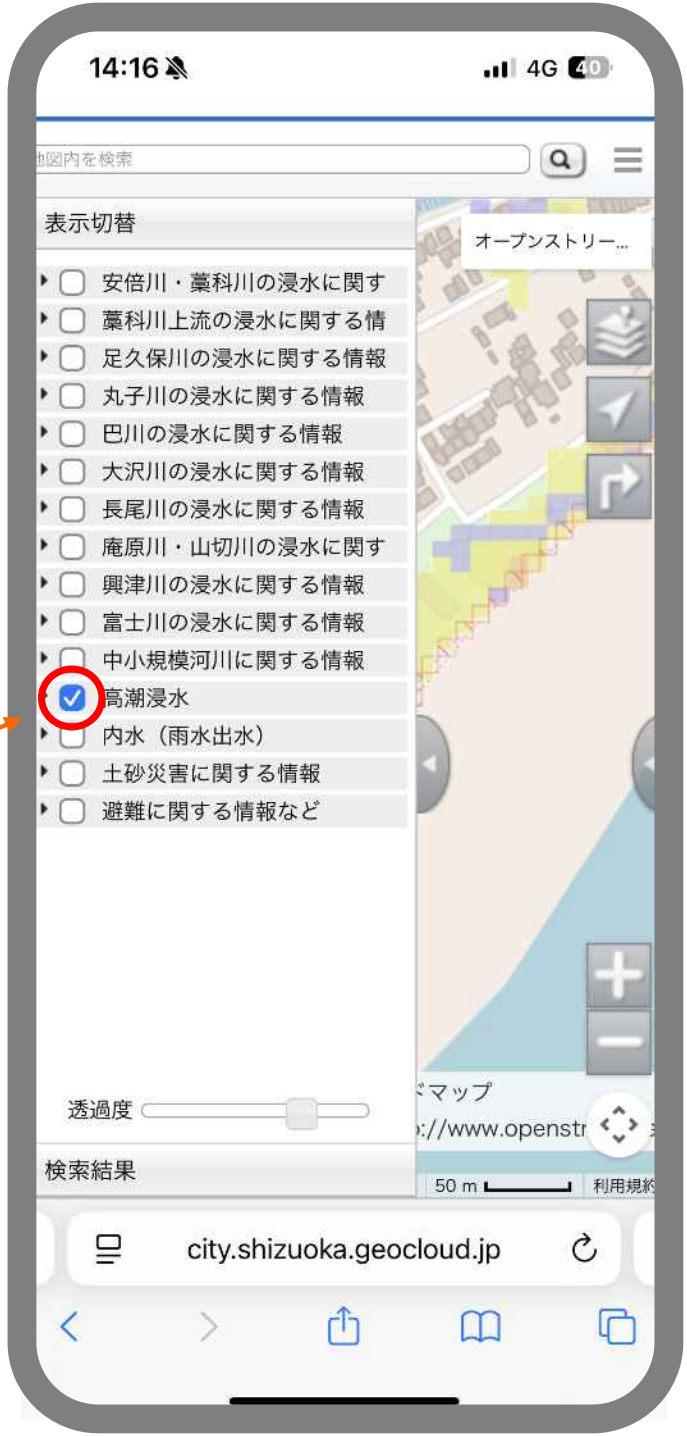
洪水・内水・高潮ハザードマップ

最後に、高潮です。

真ん中左の▷をタップし、表示切替を開きます。

余分なチェックをすべて外し、「高潮浸水」に☑を入れてください。

※沿岸部にお住い出ない場合は、飛ばしていただいても結構です。

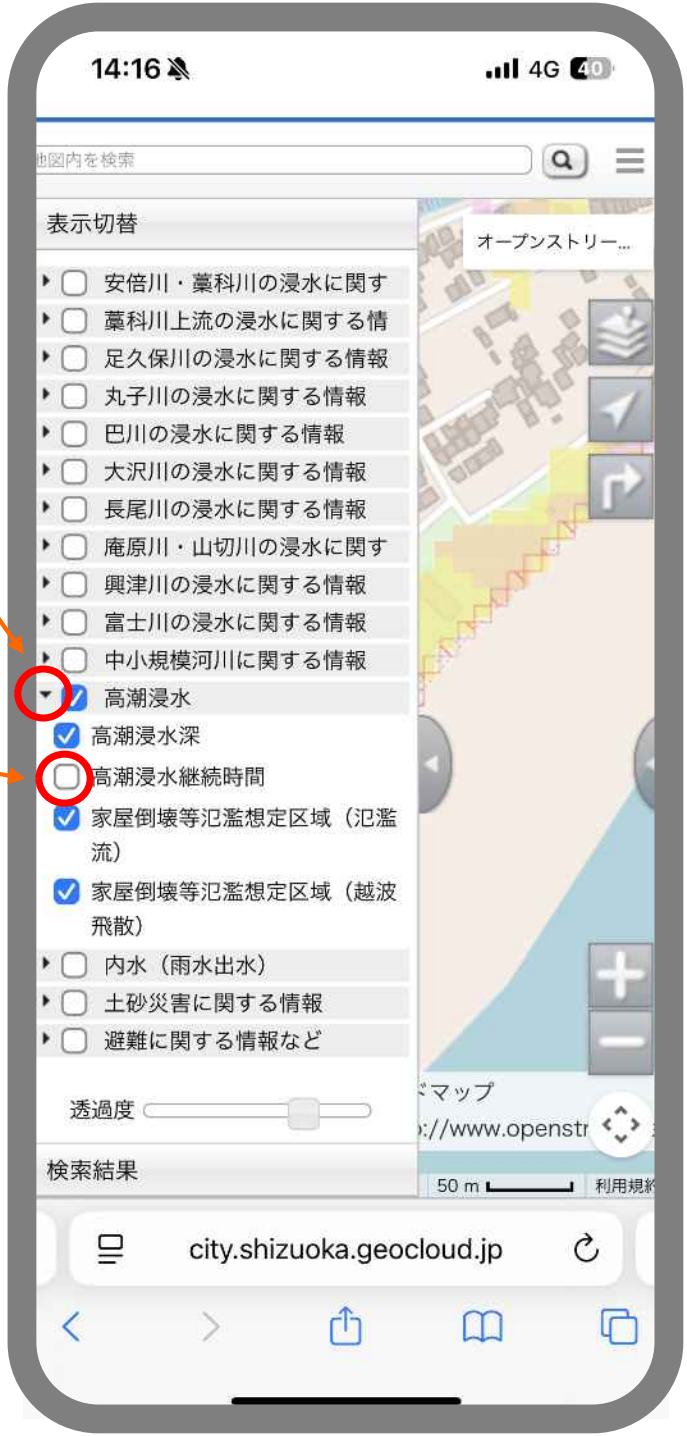


出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

洪水・内水・高潮ハザードマップ

高潮浸水の左にある小さい▶をタップし、項目を表示して、「高潮浸水継続時間」のチェックを外してください。

真ん中の◁をタップすると地図に戻れます。



出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

洪水・内水・高潮ハザードマップ

自宅周辺の色の濃い部分をタップすると、「詳細情報」が開き、「高潮浸水深　〇.〇m」と表示されます。

こちらも、周囲を複数確認し、幅を持って見るようにしましょう。

色の見方は**凡例**からも確認できますが、次のとおりです。

- 0～50cm
- 50cm～1m
- 1m～2m
- 2m～3m
- 3m以上



出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

特に注意が必要なケース

以上で、風水害のハザードマップを確認することができましたが、確認いただいた結果、特に注意が必要なのが次の3つです。

① **土砂災害警戒区域等**内に住んでいる

② **家屋倒壊等氾濫想定区域**内に住んでいる

③ 浸水深よりも**高い位置に居室がない**

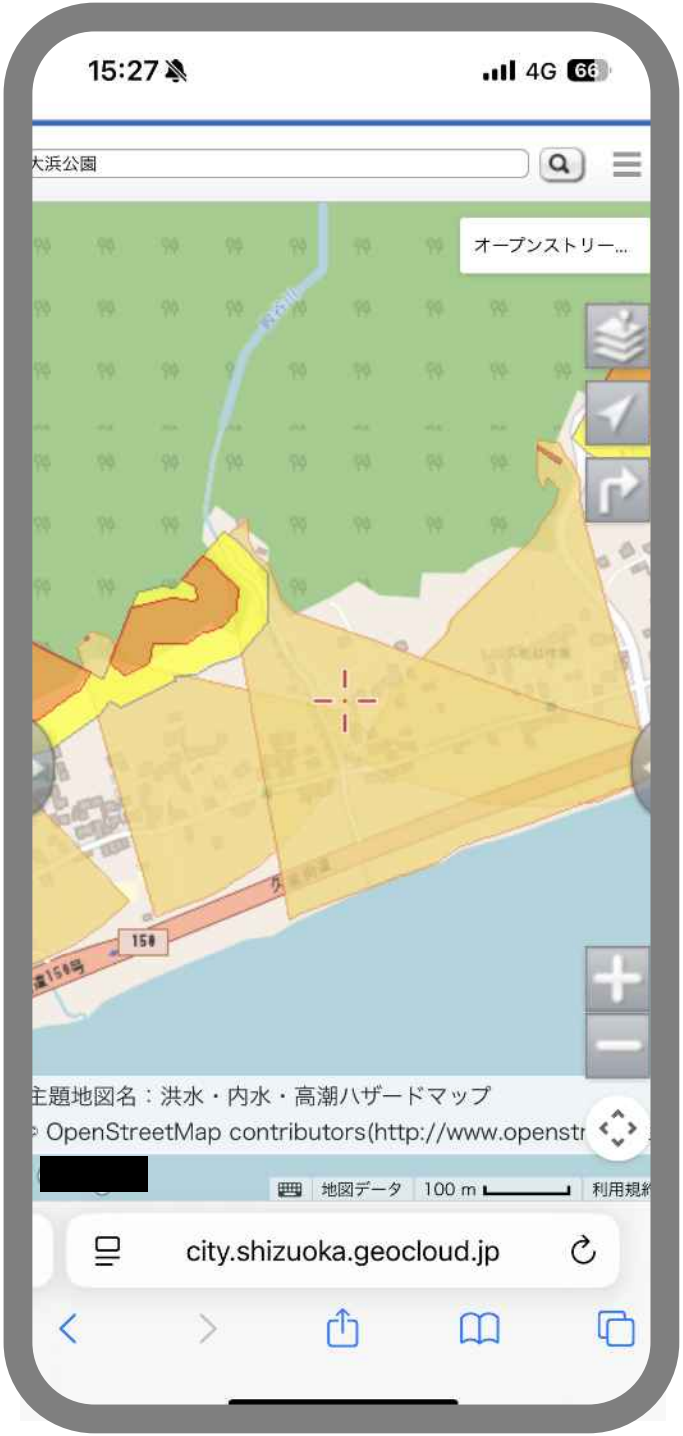
この3つについて補足します。

土砂災害警戒区域等

山や崖などの近くで、■黄色や■黄土色で塗られた地域は、「土砂災害警戒区域等」です。

大雨が降り続き、「土砂災害がいつ発生してもおかしくない」という状況になったとき、**レベル4土砂災害危険警報**を発表します。

土砂災害が発生した場合、自宅にいては命の保障がありませんので、早めに立ち退き避難が必要です。



出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

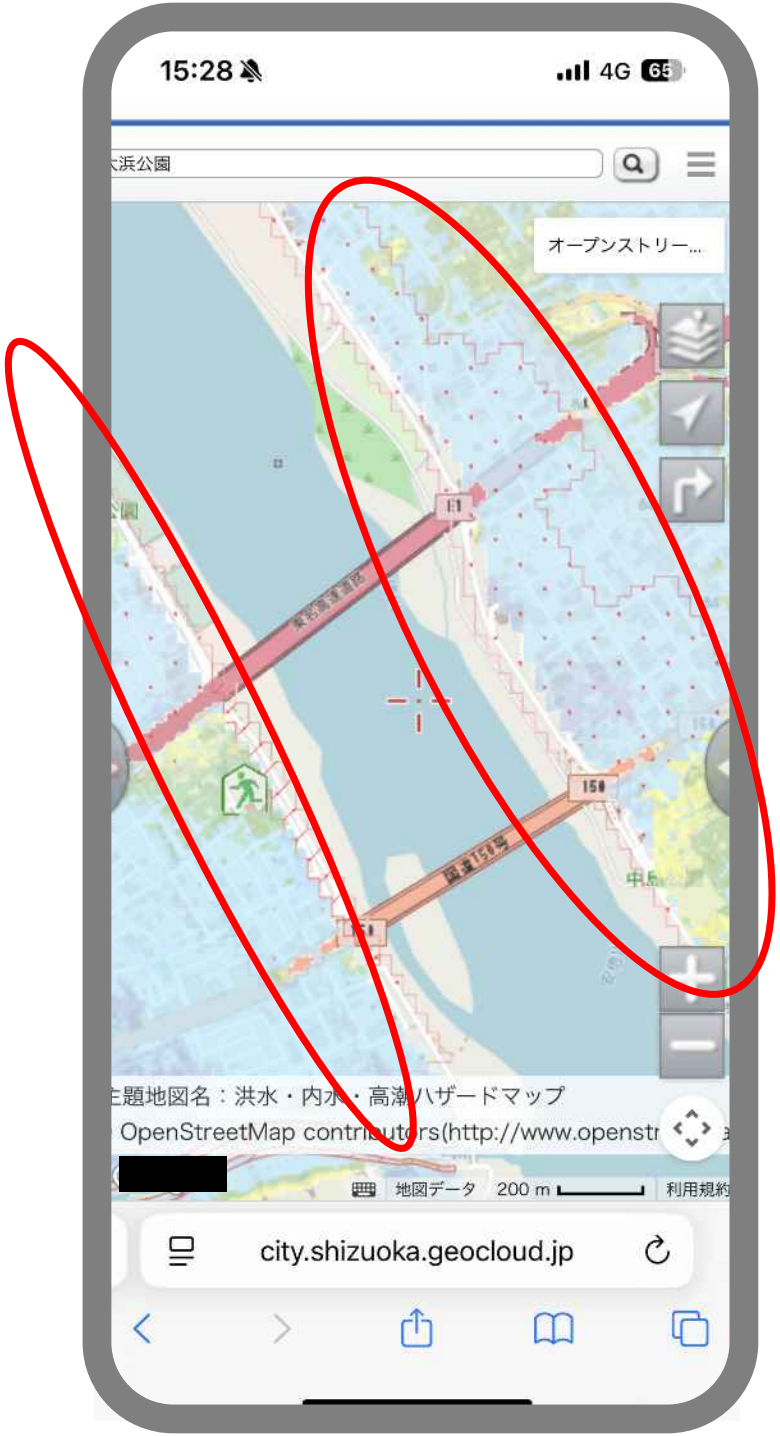
家屋倒壊等氾濫想定区域

安倍川などの大きな河川で、川の周辺に赤いドットや斜線で塗られたところが**家屋倒壊等氾濫想定区域**です。

洪水によって木造家屋が倒壊するおそれのある地域

河川浸食によって家屋が倒壊するおそれのある地域

河川氾濫によって家が流されるおそれがありますので、早めに立ち退き避難が必要です。

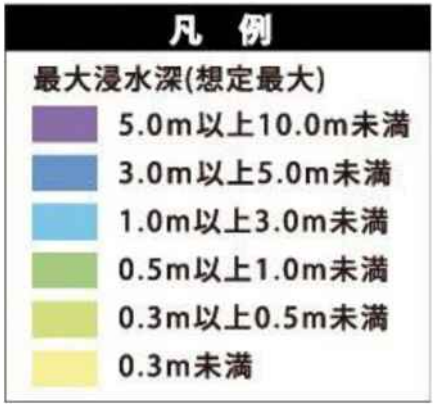


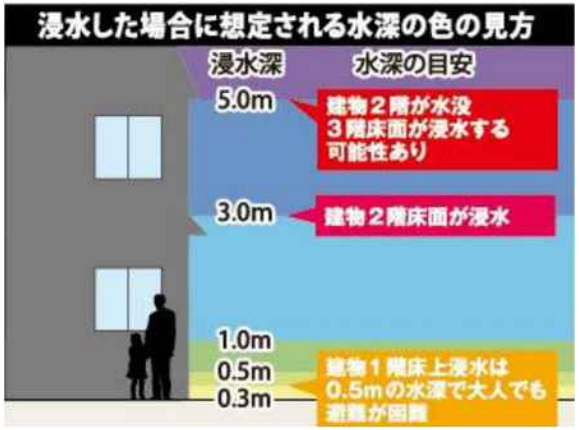
出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

浸水深よりも高い位置に居室がない

浸水想定深よりも高い位置に居室がない（例：3mの浸水が想定されるが平屋等）場合も注意が必要です。

垂直避難で安全が確保できないため、早めに立ち退き避難が必要です。







出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors



令和４年台風１５号
浸水実績図【参考】

静岡市　津波避難タワー

令和４年台風１５号 浸水実績図【参考】

最後は、令和4年台風15号による浸水実績図（参考）です。

画面右上の  マークをタップして、『令和4年台風15号による浸水実績図（参考）』を開いてください。



出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）

令和４年台風１５号 浸水実績図【参考】

開こうとすると『利用規約』が表示されます。

記載にもあるとおり、このマップは令和4年台風15号の豪雨において、床下または床上浸水した物件情報を基に、周辺の地盤高から「浸水したであろう部分」を着色したもので、実際の浸水実績の有無を表すものではありません。

内容を確認したら、『同意する』をタップします。



出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）

令和４年台風１５号 浸水実績図【参考】

少々見えにくいですが、やや緑がかった水色で囲われた部分が、令和4年台風15号のときに浸水したであろう地域です。

直近の実績として、1つの参考にしていただければと思います。



出典：静岡市地理情報システム しずマップ（https://city.shizuoka.geocloud.jp）
© OpenStreetMap contributors

ちなみに

降雨量の歴代記録（静岡）

過去の降雨量の歴代記録上位5位です。令和4年台風15号は、いずれもトップクラスの大雨でした。

	日最大1時間雨量	月最大12時間雨量	月最大24時間雨量
1位	113.0mm （H15.7月豪雨）	**404.5mm** **（R4台風15号）**	508.0mm （S49七夕豪雨）
2位	**107.0mm** **（R4台風15号）**	368.0mm （H16台風８号）	**416.5mm** **（R4台風15号）**
3位	**96.0mm** **（R7台風15号）**	345.0mm （H15.7月豪雨）	411.0mm （H31台風19号）
4位	94.7mm （S39.6月豪雨）	341.5mm （H31台風19号）	368.0mm （H16台風８号）
5位	**93.0mm** **（R6台風10号）**	**277.5mm** **（R6台風10号）**	359.0mm （R5台風２号）

※気象庁 観測史上1～10位の値（静岡）から作成。かっこ内の名称は参考（作成者調べ）



3　まとめ

静岡市　津波避難タワー

それぞれの災害リスクの整理

それぞれのハザードマップで自宅の災害リスクが確認できたら、全体を大まかにまとめておきましょう。

（大浜公園付近で2階建て住宅の場合の例）

- ☑ 地震　⇒　震度6強～7
- ☑ 液状化　⇒　なし～中
- ☑ 津波　⇒　基準水位：3m～5m、到達予想：10分未満
  避難場所：津波避難タワー（大浜）
  避難所：中島小学校（救護所あり）
- ☑ 内水氾濫　⇒　なし～床下浸水
- ☑ 洪水　⇒　浜川：1～3m、安倍川：1～3m
- ☑ 高潮　⇒　50cm～1m
- ☑ 土砂災害　⇒　該当なし
- ☑ 家屋倒壊等氾濫想定区域　⇒　該当なし
- ☑ 浸水深よりも高い位置に居室　⇒　あり

それぞれの対策を整理

整理ができると、おおまかに必要な対策が見えてきます。詳しくは、【地震編】【津波編】【風水害編】をご確認ください。

（大浜公園付近で2階建て住宅の場合の例）

- ☑ 地震
- ☑ 液状化
- ☑ 津波

大地震発生後は直ちに〇〇へ非常持出し袋を持って避難。避難指示解除後、自宅の被害を確認し、自宅が倒壊・流失した場合は、再度中島小学校へ。

- ☐ 内水氾濫
- ☑ 洪水
- ☑ 高潮
- ☐ 土砂災害
- ☐ 家屋倒壊等氾濫想定区域
- ☑ 浸水深よりも高い位置に居室

風水害時、積極的な立ち退き避難は不要。浜川・安倍川氾濫のおそれがある場合と大型台風の直撃による高潮のおそれがある場合は、浸水対策を実施し2階へ避難。

わたしの避難計画を活用

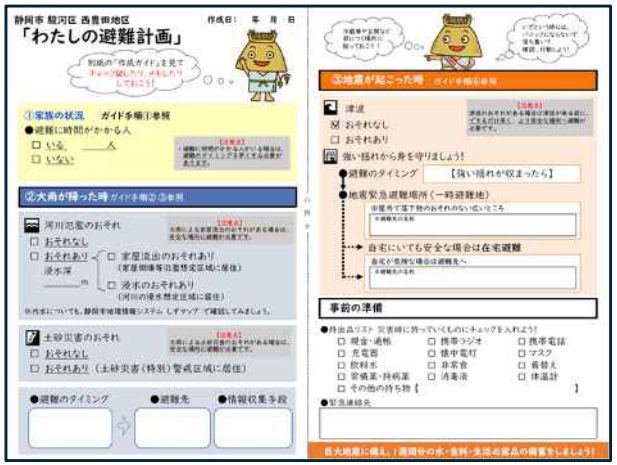
令和5年から順次配布している「わたしの避難計画」を活用することで、地震・津波、風水害時の避難のタイミングや避難先を同様に整理することができます。

誰にでも作成できるよう簡易なものになっていますので、こうしたツールもぜひご活用ください。



作成ガイド（A3見開き）

作成した計画書はいつでも確認できるよう
見やすいところに置いておきましょう



計画本体（A4両面）

おわりに

最後までご覧いただきありがとうございました。

ハザードマップは、防災を考える上で非常に便利なツールですが、前提となる想定や言葉の意味が分からないと正確に読み解くのが難しいと思います。

ボリューミーな資料になってしまいましたが、皆様が思うハザードマップの『疑問』に答えられるものになっていれば幸いです。

また、本資料をより良いものにするため、アンケートのご協力をお願いいたします。

https://logoform.jp/form/79j2/1560727

